

How Che Guevara Taught Cuba to Confront COVID-19

チェ・ゲバラの遺産ーキューバの新型コロナウイルス感染症医療国際主義

ドン・フィッツ（訳注1：『グリーン・ソーシャル・ソート』編集員で2016年ミズリー州知事選の緑の党候補）

原典：『マンスリー・レビュー』2020年6月号 翻訳：脇浜義明



Cuban doctors head to Italy to battle coronavirus, *Physicians Weekly*, Mar 23, 2020. 22-year-old Guevara in 1951

エルネスト・チェ・ゲバラは1951年12月に医学学校から9か月の休暇を取って、アルゼンチン、チリ、ペルー、コロンビア、ベネズエラをオー

トバイで旅行した。目的の一つはハンセン病患者と交流することであった。ペルーのラ・コロニア・デ・サン・パブロで24歳の誕生日を迎えた。その夜彼は川を泳ぎ渡って、ハンセン病患者が隔離されているジャングルの中に入った。ジャングルの中に掘って小屋を建てて自分なりの療養生活をしている600人の患者たちと交流した。

チェは単にハンセン病を研究し患者に同情するだけで満足する人物ではなかった。彼らとともにあって、彼らの存在を理解しようとした。病気を患い、貧しくて、いつも飢えている人々と交流する中で、チェは自己変革した。彼は新しい医療、予防医療と衛生に関して人々の意識を高めて、最大多数の人民に奉仕する医療者を備えた新しい医療を心に描いた。数年後、彼はカストロの革命運動組織「7月26日運動」に医師として加わり、1956年12月2日にグランマ号でキューバに上陸した81人の一人となった。

革命的医療

バティスタ政権を倒した1959年1月1日後に新たに制定されたキューバ憲法は、万人に無料医療を人権として提供するチェ・ゲバラの夢を明文化した。革命政府は、縦割りでバラバラな社会システムの欠陥を知っていたので、包括的に非識字、レイシズム、貧困、住宅問題に取り組むと同時に、医療や行政サービスが届かない周辺部に病院や診療所を建設した。1964年及び再び1974年に、島内の全ての診療所を総点検し、患者やコミュニティとの連携を深めた。1984年には、すべての地区に医師・看護師チームが常駐するホーム・ドクター制度を完成していた。

米国のキューバ敵視の好戦的政策が激しくなったので、1960年革命的防衛委員会を立ち上げて国防に備えた。委員会は、軍事面ばかりでなくハリケーン襲来に備えて、高齢者、障害者、病人、精神障害者を安全な高地へ移転させ、国内ヘルスケアと対外政策とを結合させた。この繋がりは

キューバ歴史に脈々と流れる特徴である。

キューバの医療革命は医療サービスを主要都市から医療サービスが少なかった農村部へ広げることだったので、そこから医療をキューバ国内から海外へ拡大するのは容易な一歩であった。1960年のチリ地震の後、キューバ政府は医療団をチリに派遣し、1963年にはフランスからの独立戦争を闘っているアルジェリアへ医療旅団を派遣した。こういう行動がキューバ医療の国際主義の基礎となり、現在コロナ・パンデミックの中でキューバの活躍が際立っているのである。

1980年代後半から1990年代初めにかけて、キューバは二つの危機に襲われた。最初のエイズ死者が出たのは1986年。1991年12月にはソ連崩壊で、ソ連から受け取っていた年間50億ドルの援助金がなくなり、国際貿易が破綻、それとエイズ感染危機が重なったのだ。キューバが位置するカリブ海地域は南アフリカ南部に次いで二番目に大きい HIV 被害地であった。キューバはアンゴラ内戦中に35万人をアフリカに派遣して、HIV に感染した。そのうえ米国主導の禁輸処置のため医薬品が購入できず、その資金もなかった。その資金調達のために観光業の水門を開いたためにセックス産業が増え、エイズ感染を広めた。

政府は公的サービス削減に追い込まれたが、教育と医療関連の予算は削減しなかった。研究機関は1987年までにキューバ独自の HIV 診断検査法を開発し、1993年までに1200万件の検査を行った。同性愛者に HIV 感染被害者が多かったことから、1990年に同性愛嫌悪や差別に取り組む教育が学校で公式に行われた。学校の保健室ではコンドームが無償配布され、高価な抗 HIV 治療剤である抗レトロウイルス薬も無料支給された。

キューバの HIV/AIDS に対する首尾一貫した組織的闘いは成功した。1990年代初め、キューバと同じ人口規模のエイズ発症件数は4300であったが、キューバのそれは200であった。財力の点では米国よりはるかに劣り、しかも米国の経済封鎖で困窮していたにもかかわらず、キューバは米国より優れたエイズ対策をやったのけたのである。ソ連とコメコン崩壊がもたらした経済危機「特別の時代」にあったも、キューバ人の平均寿命は米国人よりも長く、幼児死亡率も米国よりも低かった。このキューバの実践は、例え困難の中でも国民に思いやりのある首尾一貫した医療システムがあれば国民の健康を救えるという希望を、世界の医療者たちに与えた。

新型コロナウイルス感染症とキューバ

HIV/AIDS と「特別な時代」を乗り越えたことが新型コロナウイルス感染症への備えを固めた。キューバはこのパンデミックの深刻さを理解し、二つの切り離せない責任—自国民を総合的政策でパンデミックから保護する責任とその能力を国際的に分かち合うという責任—を自覚した。政府は、市場経済でhが普通困難とされることを行った—企業に専門外のマスク製造をさせたのである。おかげで2020年4月中旬頃にはマスクはキューバ国内に十分行き渡っていた。キューバより大きい生産能力を持つ米国ではまだマスク不足であった。

キューバ政府公衆衛生省の幹部会議で国家政策が作成された。まず、大規模な検査を実施して感染者を発見すること。感染者には食糧やその他必要なものを完全供給して、隔離する。感染にいたる接触経路も見極める。すべての国民の健康状態をチェックするため医療者による個別訪問を実施する。予防医療機関コンサルトリオのスタッフが担当地区内で感染し易い人を見つけて特別な注意を払う。

3月2日には新型コロナウイルス感染症予防管理計画を立ち上げていた。その後4日以内に入

国者を検温し、感染の疑いのある人を隔離する措置を開始した。国内で感染者が発覚したのは3月11日だったから、早い措置であった。最初の死者が出たのは3月22日、そのときにはほぼ1000人が入院で経過観察状態にあり、3万人以上の人々が自宅で経過観察中であった。翌日政府は非居住外国人の入国を禁止した。これは観光業にとって大きな痛手であった。

同じ日、キューバの市民防衛システムも新型コロナウイルスに即座に対応する警戒態勢に入った。ハバナ市市民防衛委員会はベダート地区が問題地区だとした。この地区は外国人居住者が多いところで、感染の危機が他より高いと思われた。感染者8人で、狭い地区としては大きい数字であった。4月3日に同地区は封鎖された。『カウンターパンチ』でメリアム・アンサーラが書いているように、「ベダート地区に出入りする必要がある人はすべてコロナウイルス検査を受けて陰性であることを証明しなければならない」ようにし、封鎖地区に必要な物資を供給、検査と医療を徹底した。キューバ当局は感染を「局所的感染」レベルで抑え、感染経路が分かる水準に留めたかったのだ。「地域感染」レベルにまで広がり、感染経路も分からなくなって、手の施しようがなくなる事態になるのを恐れたのだ。米国では医療専門家がPPEの完備、検査体制の拡充を必死になって要求していたのに対し、キューバでは検査キットが早急に用意され、感染者の接触経路を辿って検査できたし、PPE完備のおかげで医療者が検査や治療家庭で感染するのを防ぐことができた。

3月末から4月上旬にかけ、キューバの病院は感染を少なくするために医療者の勤務パターンを変えた。ハバナ市の医師たちは15日間サルバートル・アジェンデ病院へ泊まり込んで連続勤務。宿泊は患者と離れたところに設置された宿舎。15日間の勤務が終わると、隔離場所でさらに15日間過ごし、検査を経て自宅へ帰る。自宅でも15日間は外出をしないで過ごし、再び検査を経て勤務を再開する。このような45日間サイクルの生活は、患者との接触で感染するかもしれないウイルスを地域社会に持ち込まないためである。

予防医療の地域診療所「コンサルトリオ」が住民と医療を結び付けている。コンサルトリオの医師は毎日医学学校の3~5年生の医者の卵に地域住民を個別訪問させる。学生たちは住民から様々なデータを収集し、老人、幼児、呼吸器疾患を持つ人々の様子を調べる。学生が集めたデータをコンサルトリオの医師がチェックし、気になる点を赤鉛筆で印をつける。この情報が中央を送られ、国の医療政策や方針を決定するための資料となる。地域医師たちは定期的に診療所で会合を開き、情報交換、公衆衛生省の新政策の説明やそれに検討、医療従事者の労働状況などについて話し合う。

このようにして、地域医院の医師から中央の有名医療機関のトップまで、すべてのキューバ国民や医療従事者が、国の健康政策の決定に役割を果たしているのである。現在キューバには医師8万9千人、看護師8万4千人、2020年度末卒業予定の医学生9000人いる。これを支えるのが、国家のトップが医療専門家の意見を無視して誤魔化しの政治を行ったり、商売人の利益を促進するような政治を行うことを許さない国民の姿勢である。

政府はハバナ市とピナル・デル・リオ州の住民に免疫を上げて感染リスクを下げるホメオパシー薬剤 PrevenGoHo-Vir を無償配給することを承認した。カナダ人ジャーナリストのスサーナ・ヒューリックも投与を受けた一人である。4月8日、彼女の家から2ブロック隣りにあるコンサルトリオの3人の医師の一人ジャイセン医師が PrevenGoHo=Vir の小瓶を持って彼女の家へやってきて、薬の効能と用法を説明した。それは免疫システムを高めるが、インターフェロン・アルファ2B やワク

チンの代用になるものではないという説明だった。ヒューリックは、「キューバ医療は、他国でよく見られるような伝統的西洋医学と西洋医学の代替えとなる療法という二層構造ではなく、すべてを包み込んだ総合的一元医療であると感じた」と書いている。キューバで医学を学ぶ者はホメオパシーについても様々な用途と形態を包括的に学ぶのである。

新型コロナウイルス感染症時代のキューバの医療国際主義

強力なモデル： コロナ・パンデミックで発揮しているキューバの医療国際主義は、過去数十年にわたるウイルス感染症に対する経験に立脚している。人間に思いやりがある効果的な対策は、世界の公衆衛生担当者を励ましてきた。

知識の伝達： 2014年秋、主としてサハラ砂漠以南の地で発生したエボラを引き起こしたウイルスが猛威を振るい、世界を震撼させた。感染者が2万人、死者も5000人を超え、やがて死者数が数十万になるのではないかと心配された。米国はアフリカに軍事支援を提供し、ヨーロッパの国々は財政支援を提供した。キューバは世界が一番必要とするもので対応した最初の国であった—看護師103人、医師62人のボランティア・チームをシエラ・レオネに派遣した。各国政府がこの疫病への対応方法が分からないで苦慮している中、キューバは外国人医学生などを受け入れ、ハバナのペドロ・クーリ熱帯医学研究所で研修させた。アフリカ人13000人、ラテンアメリカ人66000人、カリブ海域人620人がキューバで自ら感染することなくエボラ治療法を勉強した。このように医療に関する理解の共有を促進することが最高水準の知識伝達である。

ベネズエラはキューバ医療モデルを国策として取り入れ、それが現在の新型コロナウイルス感染症との闘いにおいて大いに役立っている。2018年、アルトマ・デ・リディセの住民たちは7つのコミュン評議会を結成したが、その一つは地域医療に関する評議会であった。住民たちはこのコミュン健康管理システム運動に協力、ある住民は自宅の一部を提供したので、グティエレス医師はそこに事務所兼診療所を構えた。彼は地域のデータを集めて精査し、感染リスクの高い人々や場所を見つけ出した。全住民を戸別訪問し、コロナウイルス感染予防の方法を説明した。看護師のデル・ヴァジェ・マルケスは、最初のキューバ医療団がベネズエラにやってきたときにバリオ・アデント（訳注2：チャベスタ政権が2003年に開始した医療体制変革計画で、医療のポリバル革命と言われる）に関わった一人であった。彼女は、それまで医師がいなかった地区にキューバ医療団がやって来たとき、「私たちは医療団に宿を提供し、医師たちも私たちといっしょに寝食を共にし、共に働いた」ことを語っている。

このような話はベネズエラにいっぱいある。キューバ・モデルの医療体制を作り上げたおかげで、ベネズエラ政府は、2020年4月11日までには、早期のPCR検査を181,335件行っていて、ラテン・アメリカで一番感染率が低い国となった。『テレ・スール』によると、ベネズエラのコロナウイルス感染者は100万人につき6人であったが、隣のブラジルでは100万人につき104人であった。

ラファエル・コレラが大統領だった頃のエクアドルでは、キューバの医師たちが医療システムの屋台骨を形成していた。2017年にレニン・モレノが大統領となってキューバ医師団を追放してから、エクアドルの公衆衛生が崩壊した。モレノはIMFの勧告に従って健康関連予算を36%削減した。コロナが襲ってきたとき、医療専門家もPPEもなく、何より医療体制が整ってなかった。キューバのコロナウイルス死者が27人のとき、エクアドルの大都市グアヤギルでは死者が推定600人

あった。

国際社会の医学的反応： キューバ医学はそお国際主義的性格によって知られている。一例をあげると、2010年のハイチ大地震のときである。キューバは被災地ハイチに医療団を送り込んだ。医療団はハイチ人の中でいっしょに生活し、震災後も数年間活動を続けた。米国も医療援助団を送ったが、彼らは豪華なホテルで宿泊し、数週間で引き揚げた。ジョン・カークは裕福な国が貧しい国の医療危機に対応するやり方を「災害観光」(disaster tourism)という語句で表現した。

キューバ医療団が発揮した国際貢献は、医療団と医療団が治療する民衆とが同じ人間であるという絆を強化したことである。2008年までキューバは延12万人の医療専門家を154か国に送って、7千万人以上の人々を治療し、200万人以上の人々の命を救った。

AP 電は、コロナ感染症の世界的蔓延の中3万7千人のキューバ医療従事者が67か国で働いていると報道している。そのうえキューバはスリナム、ジャマイカ、ドミニカ、ベリーズ、セント・ビンセントおよびグレナディーン諸島、セント・キッツ島およびネビス島、ベネズエラ、ニカラグアに医療団を追加派遣した。4月16日のキューバ共産党機関紙『グランマ』は「21の医療旅団を20か国に派遣、中央および地方のコロナ対策を支援する」と報道している。また、同じ日に200人の医療従事者をカタールに送った。

北イタリアがコロナウィルスの猛威を受け、ロンバルディナ州クレマ市で感染者が激増、緊急治療室が追い付かなくなった。3月26日、キューバは52人の医師・看護師団を送った。彼らは集中治療用ベッド二台、酸素呼吸用ベッド32台を備えた野外病院を設営した。貧しい小さなキューバがヨーロッパの大国を援助したのだ。代償も伴った。4月17日までに、30人のキューバ人医師がPCR 検査で陽性となった。

外国人の受け入れ： 医療者を海外派遣するだけでなく、医学生をキューバに招いて勉強させたり、外国人患者を自国内で治療してきた。1966年キューバ人医師たちがコンゴ共和国へ派遣されたとき、彼らは夜中に該当の下で独学している若者たちの姿を見た。医師たちは彼らをキューバに留学させる手続きをした。1975~88年のアンゴラ内戦の間にもアフリカ人学生をキューバに留学させた。また、ハリケーン・ミチやハリケーン・ジョージの後にラテンアメリカ人学生をキューバで医学の勉強をさせている。1999年に外国人が無償で学べるラテンアメリカ医科大学(ELAM)を開校してからは、キューバで勉強する外国人の数が増えた。2020年時点でELAM で学んで医師になった人は100か国3万人となった。

外国人患者もキューバへ来て治療を受けた。1986年のチェルノブイリ原発事故の後、子どもを主とする2万5千人の被災者が治療を受けにキューバへ来た。中には数か月、数年間滞り続けた者もいた。外国人患者を受け入れ、病院のベッドを開放しただけでなく、若者たちのサマー・キャンプも主催した。

3月12日、英国のクルーズ船ブレマー号が英連邦加盟国のバハマ諸島付近で、乗客と乗組員の50人程がコロナウィルスに感染したかその疑いがある徴候を見せていた。ブレマー号は英連邦国バハマの国旗を掲げていたので、バハマの港に停泊して感染の疑いのあるものを降ろして病院へ行かせることができたはずだった。しかし、バハマ運輸省は「ブレマー号はバハマのどの港への寄港を許可しないし、乗船者の上陸も許可しない」と通告した。クルーズ船は五日間彷徨い、あちらこちらの国に問い合わせたが、米国も、バルバドス(英連邦国)も、他のカリブ海域国も受け

入れを拒否した。3月18日にキューバが同船を受け入れ、1000人以上の乗組員・乗客の上陸を許可した。体調の良くない人たちを入院させたが、そうでないほとんどの人々はバスでホセ・マルチ国際空港へ運び、英国へ向かわせた。彼らは飛行機に乗る前に「キューバ、愛しているよ」という横断幕を広げた。乗客の一人アンジー・カスリックは「私たちは許容されているばかりか歓迎されている感じがした」とフェイスブックで書いた。

すべての人に医療を： 数年おきにキューバを襲っていた蚊を媒体とするデング熱が、1981年に大流行した。この治療用にキューバが開発したインターフェロン・アルファ2Bで、世界はキューバの医療研究水準の高さを知った。ヘレン・ヤーフが指摘したように、「キューバのインターフェロンはB型・C型肝炎、帯状疱疹、エイズ、デング熱などの重大病気の治療に効果があり、安全であることが証明された。」また、死を招くような恐ろしい合併症も防ぐ。そのうえ、2020年には新型コロナウイルス感染症の治療にも効果がある可能性も発見された。このインターフェロンの他にもキューバ、キューバは多くの薬剤の開発に熱心で、しかもそれを他の国々と共有しようとするのである。

キューバは中国、ベネズエラ、ブラジルなどの国と合同で薬剤開発に努めてきた。ブラジルとの開発協力では一服15~20ドルもしていた髄膜炎ワクチンを95セントで入手できるようにする結果を生み出した。最後に、キューバは第三世界に国々が先進国から高い薬を買わないですむように、第三世界の国々に薬を自主開発できる知識と技術を提供した。

疫病との闘ううえで薬が果たす目的は三つ—1)感染者を見つけるための検査用、2)予防または治療のための治療用、3)感染を防止するためのワクチン。PCR迅速検査キットが利用できるようになると、キューバ政府は直ちに島で暮らす人々全員の検査を開始した。アルファ2B(組み換えタンパク)とPrevengoHo-Vir(ホメオパシー薬剤)はキューバが開発した薬である。『テレ・スール』は、3月27日時点で、45か国が新型コロナウイルス感染症と闘うためにキューバ開発のインターフェロンを求めた、と報道した。キューバの遺伝子工学\$生命工学センターは新型コロナウイルスに対応するワクチン開発を行っている。センターの生命医学研究部長のヘラルド・ギリエンは、自分が率いるチームが中国湖南省永州市の中国人研究者と共同で、免疫システムを刺激するワクチン、感染ルートである鼻を通じて吸収できるワクチンの開発を行っていると言っている。いずれにせよ、キューバが開発する薬剤は低価格で他国に提供される。その点で米国と大違いである。米国は納税者から搾り取った莫大な補助金で開発した薬を特許化し、法外は値段で売りつけて利益を稼ぐのである。

キューバの医療支援を拒否する国： 各国の医療行政や医療専門家組織は、必ずしもキューバ医療支援団が見せる病人への心からの心配を共有しているとは限らないし、時にはそれをまったく欠いている場合もある。ベネズエラ、ブラジル、その他の国の医師会がキューバ医師団に敵意を示す場合がある。しかし、彼らはキューバ医師団のようにラバやカヌーを使って僻地の貧しく危険な地区に出かけることをしない。

2010年、私はペルー地震の後キューバの支援で活動してきたピスコ病院を訪問した。院長のキューバ人医師レオポルド・ガルシア・メヒアスの説明によると、当時の大統領アラン・ガルシアはキューバ人医師が増えるのを望まなかったのも、出来るだけ目立たないように活動したという。キューバ政府も、災害救助に関する医療救援でも派遣先国の政治風土を理解し、それに順応する

ように救助団に指示していた。しかし、為政者の気まぐれを民衆が止めた例があった。1998年キューバはホンジュラスに医療サービスを提供、1年半でホンジュラスの幼児死亡率が1000人当たり80.3人から30.9人に低下した。しかし、2005年に政治風景が一変し、メルリン・フェルナンデス厚生相がキューバ医師団の国外退去を決定した。これに対し国民の反対運動が起きて、結局政府は態度を変更、キューバ医師団の滞在を認めた。

キューバ医療援助を拒否して自国民を苦しめた例もある。2005年ハリケーン・カトリーナが米国を襲った後、キューバは1586人の医療専門家を被災地ニューオーリンズに派遣すると申し出た。しかし、ジョージ W. ブッシュ大統領はその申し出を断った。キューバの医療水準の高さを認めるくらいなら米国民が死んでも構わないという姿勢であった。

米政府はキューバのELAMで勉強した自国民医学生に冷淡だが、学生たちはELAMで学んだことを自国で活かした。ニューメキシコ州アルバカーキのキャスリン・ホル＝トルヒージョは出産プロジェクトUSAを設立した。これは黒人女性妊婦とその赤ちゃんをケアするプロジェクトで、キューバと多くの多くのELAM卒業生が支援した。2018年キャスリンは「このプロジェクトはELAM卒業生の本拠地のようにになりました。彼らはELAMで学んだことをここで実践することができたのです」と私に語った。

キューバが1974年に国内のクリニックを改良した話を、私は2017年にキューバ人医師ロペス・ベニテスから聞いた。それまでは他国と同じように患者がクリニックへ行っていたのを、クリニックが患者の方へ行くという仕組みに変えたのである。コロナ・パンデミックの中の米国でこれを取り入れたのは南ブロンクスの医師メリッサ・バーバーであった。彼女はコロナウィルスとの闘いでは、住民が医療機関や医療行政へ行くのではなく、医療機関が医療者などを組織して住民の方へ働きかけるべきだと思った。バーバー医師は南ブロンクス・ユナイト、モット・ヘイヴン・ママス、その他の地区借家人組合と連携して、その作業を行っている。キューバと同じように、地区内で最も感性リスクが心配される社会的弱者—「老人、乳飲み子や幼児を抱えている女性、外へ出ることができない障害者や病弱者、多くの病を抱えている人等々」—を見つけた。援助が必要な人を特定すると、その人を助けるのに必要なもの—食糧、PPE、薬、治療などの手配を行った。要するに、地区内を戸別訪問して、取りこぼされる人がないようにしたのである。このような人民レベルの取り組みとは対照的に、米政府はすべてを州や市任せの方針である。つまり、ごく少数の人が取りこぼされる隙があるというところか、州や市のやり方には大きな隙があって、貧困層という大きな集団が取りこぼされるのを、そのままにするという方針なのである。南ブロンクスやキューバでやっていることは、市場経済を軸とする国ではできないのだ。

以上が、1951年にチェ・ゲバラが心に描いたことの展開である。新型コロナウイルスが人から人へ伝わる前の数十年間に、ゲバラの夢が人から人へ、医師から医師へと伝わっていた。多くの人がその夢を広く共有したので、1959年キューバは革命的医療を外国にも広げたのである。もちろん、ゲバラが現在キューバ医療の複雑な内部構造を設計したのではない。多くの人が彼を尊敬し、次々とアイデアを開発して追加していったので、そうやって出来上がった仕組みが国内・国内に広がっていったのである。将来もっと多くの人が同じ性質の新しいアイデアを開発するだろう。既成社会構造が崩れつつある現在、その新しいアイデアが拡散すれば、それが革命的思想となって、新世界を創造する力となるであろう。

